

子育て世代を 強力にサポート!

核家族化や地域コミュニティの希薄化により、子育てを取り巻く環境は大きく変化しています。そして、より多くの女性が活躍する社会をつくるためには、安心して仕事に専念できる子育て支援が必要不可欠です。

市では、このような現状に対応し、安心して子育てができる環境を実現するため、さまざまな子育て支援を実施しています。今回は、今年度、予算を措置し強力に取り組む「子ども・子育て支援」や「仕事と子育ての両立支援」など、各種子育て支援事業を特集します。

◎問い合わせ 秘書広報課 ☎23-3174



人材確保と施設整備推進で 保育体制を強化!

保育士応援 プロジェクト

本市の「待機児童」の数は、平成31年4月時点で0人となっています。しかし、保育士が足りないなどの理由から、希望する地域の保育所などに入所できない「空き待ち児童」がいます。

市では、この現状に対応するため、今年度から新たに「保育士応援プロジェクト」を実施。保育に携わる人材を育成・確保するとともに、保育業務の環境を改善し、空き待ち児童の解消を図ります。



子育て支援員研修事業

予算額 150万円

平成27年からスタートした「子ども・子育て支援制度」では、保育所などで保育補助業務を行える「子育て支援員」の配置が可能となりました。

子育て支援員の養成は県が行っていますが、さらに、今年度から本市でも子育て支援員を養成。8日間の基本・専門研修を通して、地域の保育所などで業務に従事する人材を増やします。

子育て支援員等の 保育士受験支援事業

予算額 210万円

保育補助業務に従事する子育て支援員が、保育士になるための受験料や、通信講座を受講する費用などを補助。また、受験前には対策講座を開催するなど、多方面から資格取得を支援します。



トピック

子どもたちは都城の宝！ 子どもの未来応援事業

子どもの生活・学習支援事業 予算額 1,353万円

平成29年度に策定した「みやこのじょう子ども未来応援計画」の一つの柱として、平成30年度から都城市社会福祉協議会に「生活・学習支援コーディネーター」を配置し、地域における子どもたちの居場所づくりとして、生活や学習の支援を行います。

●学習支援ボランティア事業

学習を支援するボランティアの養成や研修などを行い、子どもたちに切れ目のない支援を展開します。

●子どもの生活・学習支援事業

生活や学習の支援を行っている団体に対し、安定的・効率的に継続できるような事業費の一部を助成します。



子ども育成相談事業 予算額 151万円

家庭環境や経済的困難などの理由から、高校進学や就職で困っている中学校卒業者などの就学・就業を支援するため、地元企業が集まった「ふるさと育成協議会」が平成29年に発足しました。市では、学校・家庭・企業・行政をつなぐ同協議会のコーディネート業務を支援し、子どもたちを多方面からサポートする体制を強化します。



保育士の業務負担を軽減するため、保育計画や登降園時間管理業務などのICT（情報通信技術）化を推進。機器導入費用の一部を補助します。

保育所等ICT化推進事業

予算額 1,125万円

保育士サポーター配置事業

予算額 6,912万円

保育所などで、清掃業務や遊具の消毒、行事の準備など補助業務を行う「保育士サポーター」の配置を支援。保育士が本来の保育業務に専念できるほか、業務負担が軽減されることで保育士の職場定着を図ります。

保育の受皿 確保対策

希望する地域の保育所などに入所できない「空き待ち児童」。特に、0歳～2歳児は、育児休業明けに子どもを預けたいというニーズが多い一方で、保育士配置基準や施設基準が厳しいことから、入所しづらい状況にあり、空き待ち児童が多くなっています。

このため、市では「保育の受皿確保対策」を進めています。小規模保育所の設置や法人立児童福祉施設の整備を支援し、保育の受け皿を拡大することで、空き待ち児童の解消を図ります。

小規模保育所推進事業

予算額 2億9,688万円

0歳～2歳児が入所可能で定員が20人未満の「小規模保育所」の設置を推進し、0歳～2歳児の保育の受け皿の拡大を図ります。

今年度は、ひよこ園（南鷹尾町）とピュア・ハートナーサリースクールのかなだ（金田町）の2カ所を追加設置します。

法人立児童福祉施設整備費補助金

予算額 5億3,112万円

定員の増加に伴う保育施設の園舎建て替え整備費を補助し、保育の受け皿の拡大を図ります。

今年度は、新たに志比田こども園と川東さくらんぼこども園の整備を支援。保育ニーズの高い市内中心部の保育の受け皿を拡大し、空き待ち児童の解消を促します。





予防接種の拡充などで 子どもの健全な成長をサポート！

各種予防接種

予算額 4億41万円

感染力の強い疾病の流行と重症化を防ぐ「予防接種」。市では、任意予防接種「おたふくかぜワクチン」の助成を行っていましたが、今年度から任意予防接種「ロタウイルスワクチン」の助成を追加しました。

ロタウイルスは、乳幼児期にかかりやすい急性胃腸炎の原因ともいわれ、嘔吐や発熱、下痢などの症状が現れ、重症化すると脱水や脳炎を引き起こす場合があります。予防接種を希望する人は、医療機関で申し込みください。

●対象・接種回数・助成額

1価ロタウイルスワクチン	市内在住の生後6週0日～24週0日の乳児 2回 1回当たり1万500円
5価ロタウイルスワクチン	市内在住の生後6週0日～32週0日の乳児 3回 1回当たり7千円

※医療機関によって自己負担額が異なります

乳幼児医療費助成事業

予算額 3億7、109万円

市では、乳幼児の医療費を助成し、乳幼児の健全な成長をサポートしています。

平成29年度から、0歳～小学校就学前児童の、入院・通院にかかる健康保険内の自己負担の無料化を実施していましたが、今年度も継続。子育て世代の医療費自己負担を軽減し、子どもの成長を全力で応援します。

●制度利用の流れ

市内に在住する小学校就学前の児童を対象に受給資格証を発行します。希望する人は、こども課（緑色4番）または各総合支所市民生活課に申請ください。

発行後、医療機関で受診する場合には、健康保険証と一緒に窓口で提示ください。

受給資格証を忘れたり、県外の医療機関で受診したりした場合などは、いったん自己負担が必要ですが、市に請求すれば乳幼児医療費助成金を支給します。



「子育て」が楽しく便利に！ 電子母子手帳サービス

平成29年度からスタートした、スマートフォンなどから利用できるアプリ「都城市電子母子手帳サービス」。予防接種の予定日を知らせたり、健診の記録を確認できたりするなど、子どもの健康情報を把握できるほか、成長の記録を家族間で共有できる機能も備えています。このサービスを利用して、子育てを楽しく便利にしてみませんか。

※詳しくは、市ホームページで確認ください



利用者の声

長男出産後に、電子母子手帳の利用を始めました。特に便利だと感じたのは、予防接種。外出先でもスマホで見ることができ、とても役に立っています。子育て世代の頼れる存在ですね。



池田 理紗さん
(年見町)



仕事と子育ての両立を支援し 働く子育て世代を強力サポート!

放課後児童クラブ推進事業

予算額 5億8、052万円

市では、放課後や夏休みなどの学校休業日に、保護者が就労などの理由で子どもの世話ができない世帯に対し、放課後児童クラブを設置。安全で充実した生活を送れるよう、児童館や保育園、小学校などに開設しています。今年度、4カ所を追加設置し、直営と委託を合わせて70カ所のクラブで、子どもたちの笑顔がふれます。

ファミリーサポートセンター事業

予算額 991万円

育児の支援を受けたい人と、子育て世帯の支援をしたい人をつなぐ、相互援助活動「ファミリーサポート事業」。事前に登録した利用会員が「保育園や塾に子どもを送迎してほしい」「急な残業になったので預かってほしい」など、サポートを必要とするときに援助会員が支援します。市では、平成28年度から、1時間

当たり300円の利用料の補助を行っています。さらに、今年度から新たに病児・病後児の預かりを開始しました。より利用しやすくなったことで、仕事と子育てを両立できる環境が整いました。

●利用料金(1人・1時間当たり)

月(金曜日(7時~19時))
通常利用: 300円、病児対応: 600円
それ以外の時間
通常利用: 400円、病児対応: 700円

※補助実施後の金額

病児・病後児保育事業

予算額 2、107万円

「子どもが急に熱を出した」「熱は下がったが、まだ保育園に登園できない」など、子どもが病気になると働く親は休みを取らなければなりません。これまで市内では、吉井病児園(千町)とさつき保育園(都島町)の2園で病後児保育を実施していましたが、今年度から市内初となる「病児保育」が、まるのキンダーガーデン(野々美谷町)で可能となりました。インフルエンザやおたふくかぜなどでも、医師が問題ないと判断した場合は預けることができます。



インタビュー



菊池さん家族(松元町)

左から 勝江さん、
智紘さん、 叡彦くん

私が志布志市で働いていて、夫が熊本県に単身赴任をしています。双方の両親は遠方に住んでいるので、周りに子どもを預ける環境が

なく、仕事を休めないときにファミリー・サポート・センターを利用し、援助会員さんに預かってもらっています。

子どもが病気のときは仕事を休んでいましたが、病児預かりが可能となったことで、長女が熱を出した4月上旬に早速利用。仕事が繁忙期で休めなかったので、非常に助かりました。

私たち家族にとって、仕事と子育ての両立に欠かせないファミサポ。これからも積極的に利用していきたいです。